

## 徳島県内の高等教育機関における学生支援の取り組み

大石雅章<sup>1)</sup>、下坂剛<sup>2)</sup>、川畑成之<sup>3)</sup>、吉田 博<sup>4)</sup>

- 1) 鳴門教育大学
- 2) 四国大学生生活科学部・学修支援センター
- 3) 阿南工業高等専門学校機械工学科
- 4) 徳島大学大学開放実践センター

### 本ラウンドテーブルの趣旨

徳島県下の FD ネットワーク(T-SPOD)加盟校の教育力の向上のために、各加盟校において「学生の学習・研究活動、課外活動などを支援している取り組み」について、情報共有・交換を行うものである。これによってさらなる T-SPOD 加盟校の連携強化を期待したい。

### 1. 教師実践力に資する就職支援の在り方

(鳴門教育大学副学長(学生支援担当) 大石雅章)

学生が就職までに習得しなければならない能力として、①個々の専門的知識や教養、②個々の専門的知識を現場で活用するためにそれを総合化・統合化できる能力(知の創造力)、③現場での実践的対応能力がある。従来の大学教育では、①に重きがおかれ、職場での経験によって習得されてきた③は軽視されてきた。

しかし、現在の社会では、とりわけ教育現場においては教員1年目からクラスの担任を任されるなど、即戦力が期待されており、社会のニーズに応える大学教育が求められている。このような大学教育を実現するためには、専門的知識や総合的知識、教養の習得のみならず、将来の職場での実践的対応能力の習得も含めた教育へと大学教育に対する意識改革が不可欠である。

その実践的対応能力の養成のひとつの事例として、鳴門教育大学の就職支援室を核にした全学で取り組むキャリア教育活動を紹介し、本FDの議論にわずかながらも資すればと考えている。

### 2. 学修支援からみた四国大学における学生支援の現状

(四国大学生生活科学部・学修支援センター 下坂剛)

四国大学における学生支援は、学修支援センター及びスタディールーム(別室)、学生相談室、キャ

リア相談室という3つの主要部署がある。今回の話題提供では、筆者が従事する学修支援センターにおける個別の学習支援やカウンセリング、発達障害学生の支援といったさまざまな関わりについて、いくつかの事例(個人情報保護への配慮として概略のみで一部は改変したもの)を簡単に紹介する。その中では、学修支援センターだけでなく、学生が所属する学科・専攻の教員や、上記の複数の支援部署と連携しながら、同じ学生を支援している事例も少なくない。また、学修支援センターの別室として平成24年度4月から開室した「スタディールーム」は、物理的な位置関係も学修支援センターと学生相談室の間にあり、大学生生活の適応上でさまざまな問題を抱えた学生の居場所となりつつある。まずは本学の学生支援の現状を、筆者の学修支援という立場から発表することで、本ラウンドテーブルにおける議論の材料を提供できればと考えている。

### 3. ロボコンを通じた学生支援活動

(阿南工業高等専門学校機械工学科 川畑成之)

阿南高専では2005年度よりロボコン対策専門委員会が組織され、教職員サイドの支援組織として多岐にわたる活動を行っている。代表的な取り組みは以下の3点である。

①技術支援：設計工程において強度や機構面での問題を指摘し、学生がアイデアを実現できるよう

指導する。また、製作中の修正指導によって、動作しないロボットとなることを未然に防止する。このことは、大会本番で自ら製作したロボットの性能を十分に披露することで、学生が達成感を得るためには重要なことである。

②予算支援：学生が十分な活動を行うための予算を確保する。一方で、無駄な出費を抑制し、効率的に予算を使用することも重要である。また2012年度からは予算と実際の購入価格を学生に提示し、予算管理を学生主体で行えるよう指導を始めている。

③学生の自主的活動体制の構築：アイデアをまとめる工程、低学年（特に新入生）への工作技術指導や安全教育、ならびにルール発表（4月下旬）から大会当日（10月）間のスケジュール管理を学生主体で実施できるよう、リーダー教育を行っている。

ムのサポートする上で心がけていることを報告する。

#### 4. 学生による学生支援チーム「繋ぎ create」の支援

（徳島大学大学開放実践センター 吉田博）

2010年11月「大学生の躍進」を目的に、正課外活動支援の観点から学生支援を行う学生チーム「繋ぎ create（当時、しゃべり場企画チーム）」が発足した。繋ぎ create は、大学生生活の充実、学生が躍進できる機会を創るために、学生と教職員と一緒に大学生生活について考えることができる企画を開催している。例えば、授業を選ぶ基準や夏休みの過ごし方などをテーマにグループトークを行う「真剣徳大しゃべり場」、大学在学中になすべきことを見つけ出す「DEEP PEOPLE」、夢や志について語り合う「松下村塾 in Tokushima」などがある。また、学内のFD、学生支援に関するセミナーに参画し、学生視点からの話題提供を行っている。これらの活動は、学生の自主、主体のもと行われており、毎週開催しているチームミーティングでは、学生が司会、議事録の作成、議題の提示を行い、チームの活動内容、方針を決定している。筆者は、繋ぎ create のサポーター教員として、学生の自主性を尊重しつつ適度な助言、指導を行っている。本発表では、繋ぎ create の活動、学生チー